

別表

< 学校園において予防すべき感染症の種類と出席停止の期間の基準 >

| 種 | 病名 | 出席停止の期間の基準 |
|-------------|---|---|
| 第1種 | エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、特定鳥インフルエンザ | <p>治癒するまで</p> <p>感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第6条第7項から第9項までに規定する「新型インフルエンザ等感染症」、「指定感染症」及び「新感染症」は第1種の感染症とみなす。</p> |
| 第2種 | インフルエンザ (特定鳥インフルエンザは除く) | 発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日(幼児にあっては3日)を経過するまで。(発症日は0日と数える。) |
| | 新型コロナウイルス感染症 | 発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快(※)して後1日を経過するまで。無症状の場合は、検体採取日から5日を経過するまで。(発症日は0日と数える。) |
| | 百日咳 | 特有の咳が消失するまで、または5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで。 |
| | 麻疹 | 解熱した後3日を経過するまで。 |
| | 流行性耳下腺炎 | 耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身症状が良好になるまで。 |
| | 風疹 | 発疹が消失するまで。 |
| | 水痘 | すべての発疹が痂皮化するまで。 |
| | 咽頭結膜熱 | 主要症状が消退した後2日を経過するまで。 |
| 結核、髄膜炎菌性髄膜炎 | 第3種と同じ扱い。 | |
| 第3種 | 腸管出血性大腸菌感染症、コレラ、細菌性赤痢、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症 | 結核及び第3種の感染症にかかった者については、病状により学校医・その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで |

◎出席停止の期間は、感染症の種類に応じて基準が定められていますが、症状には個人差がありますので、医師の診断に基づいて登校するようにご注意ください。

※「症状が軽快」とは、解熱剤を使用せずに解熱し、かつ呼吸器症状が改善傾向にあることです。